

## 実践事例

(環境) 秦梨小学校 4年

# 調べよう！守ろう！わたしたちの乙川

4月～2月(35時間)

## 1 ねらい

秦梨学区は豊かな自然に恵まれ、乙川が学区を縦断して流れている。子供たちは幼い頃から乙川に親しみ、乙川の環境のよさを当たり前のように感じている。だが、実際には多くの人々の努力によって、現在の乙川の環境が保たれている。本実践を行うことで、乙川のよさに気づき、豊かな自然に恵まれた乙川により深い愛着をもたせたい。また、乙川の環境を保つために努力している人たちの思いに気づき、子供たち自身も乙川のために自分たちができる活動を考え、行動したいという気持ちを育てたいと思う。乙川を中心とした学習を通して、ふるさと秦梨を大事にしていこうとする気持ちを高めたいと願っている。

## 2 実践の概要

### (1) アユの放流をしよう

毎年、地域の「乙川漁業組合」の人たちに支援していただいて、本校の4年生が行っているアユの放流を、今年も行った(写真1)。バケツいっぱいに入れてもらったアユの稚魚を慎重に乙川に放流する姿が見られた。

### (2) 水生生物を調べよう

4月、これからの総合学習で取り組みたい活動について話し合った。これまでの4年生が行ってきた水質調査やごみ拾いなどの活動を行いたいという意見が多く出た。その意見の中から、まずは水生生物調査による水質調査から行うことにした。岡崎市の環境保全課の方に来ていただき、水生の指標生物の調査を行った。天候が悪かったが、子供たちは積極的に川へ入り、川底の石を裏返して水生生物を探していた(写真2)。調査の結果、学校の前の乙川の水は「ややきれい」に分類されることが分かった。子供たちの中には、思ったよりも乙川の水が汚れていることに驚く子もいた。

### (3) 昔の乙川について知ろう

より深く秦梨学区の乙川について知ってほしいとの思いから、昔の乙川の様子について調べる活動を行った。子供たちの家族に協力してもらい、祖父母や親が子供だった頃の乙川の様子の聞き取り調査を行った。聞き取り調査の後、家族に聞き取ってきた乙川の昔の様子を伝え合った。昔の乙川の方がきれいであったこと、また、両親や祖父母が子供の頃には川遊びや魚つかみなどをして乙川に親しんでいたことが分かった。家族に聞き取って分か



写真1 アユを放流する児童



写真2 水生生物を探す児童

った昔の乙川の様子を「乙川昔マップ」にまとめた（写真3）。

#### （4）「乙川を美しくする会」の方に話を聞こう

乙川的环境を守るために活動している人たちの思いを知るために、「乙川を美しくする会」の副会長の方に話を聞くことにした。どのような活動をし、どんなことに困っているかを具体的に知ることができ、多くの方々の川的环境を保つための努力や乙川への思いに気付くことができた。

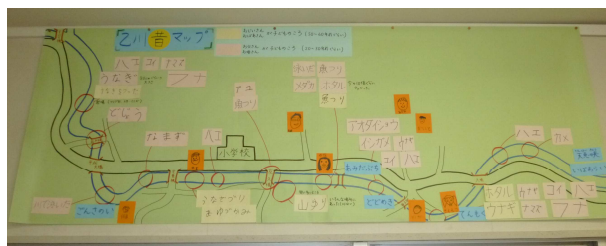


写真3 完成した「乙川昔マップ」

#### （5）今の乙川について知ろう

今の乙川の状態をより深く知るために、乙川の探検を行うことにした。学校から上流側と下流側の2回に分けて探検を行った。上流側6か所、下流側12か所のポイントを設け、そのポイントから乙川の様子を見て気付いたことをワークシートに記録させた。探検をする中で、川岸にごみが多く落ちていることに気付いた。乙川のごみ拾いは別の日に行い、この日は探検のみの予定であったが、子供たちの「ごみを拾いたい」という気持ちが強く、拾えるごみを拾いながら探検を続けることにした。上流側、下流側ともに、袋いっぱいのごみが集まった。また、「この場所に家族でホテルを見に来



写真4 乙川探検で川の水を触る児童

たことがある」「ここでアユ釣りをしている人がたくさんいたよ」などと自分が知っていることについて友達と教え合う姿が見られた。探検の途中で、川の水を触ったり水切りをして遊んだりし、乙川のよさを肌で感じているようだった（写真4）。また、乙川にはきれいな景色が多くあることにも気付くことができた。探検で分かったことを「乙川今マップ」にまとめた（写真5）。

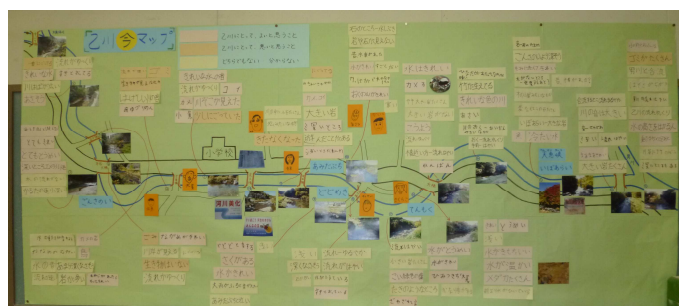


写真5 完成した「乙川今マップ」

#### （6）未来の乙川について考えよう

乙川の昔の様子、今の様子を比較し、未来の乙川について考えさせることにした。20年後どんな乙川になってほしいか尋ねると、「昔のようなきれいな乙川になってほしい」「川遊びができるようになってほしい」など、それぞれが乙川に対する思いを発表していた。

### 3 実践を振り返って

本実践を通して、子供たちの乙川に対する関心を高めることができたように思う。しかし、子供たちの意識がつながるような実践計画を立てられなかったことが反省である。子供たちの意識がつながるような実践計画を立てれば、子供たちの乙川に対する関心や愛着をより高めることができたのではないかと思う。